

1. 対象施設

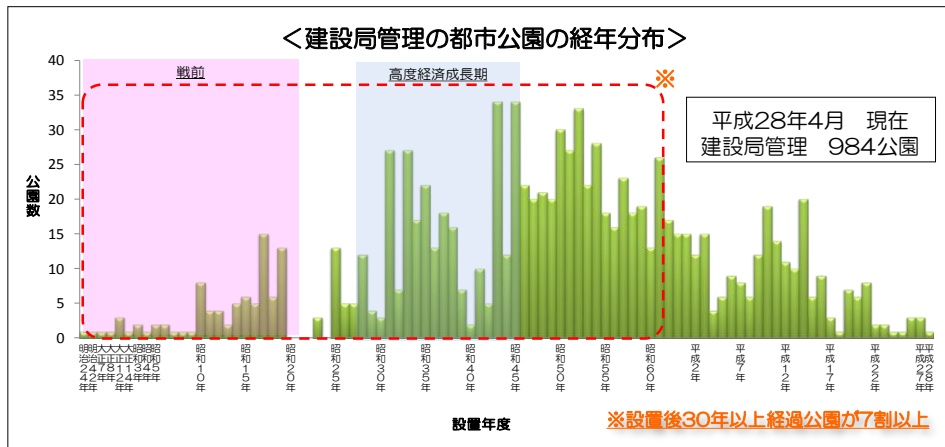
◆都市公園の現状

✓昭和40年以降、都市公園を積極的に整備してきました。

昭和39年4月 286公園・322ha
 ↓
 平成28年4月 984公園・872ha

✓現在、開設後30年以上経過した公園が全体の約7割を占めています。

✓今後、これらの施設が本格的な更新時期を迎えます。



◆公園施設の特性に応じた維持管理

✓都市公園には、多種多様な公園施設が設置されており、それぞれの施設の特性に応じた効果的な管理を行う必要があります。

✓公園施設の管理手法は、「予防保全（状態監視型・時間計画型）」による維持管理を基本とします。ただし、損傷により致命的な被害・影響を与えない施設については、「事後保全」による維持管理を行います。

＜主な施設の主要部材＞

分類	施設事例	主要部材
園路広場	園路、公園橋梁など	アスファルト、コンクリート、金属、木材、レガなど
修景施設	バ-ゴ-ラ（日陰棚）・モ-メントなど	コンクリート、金属、石材、木材、レガなど
休憩施設	ベンチ・テーブルなど	コンクリート、金属、石材、木材など
遊戯施設	ア-ラ-ジ・すべり台など	コンクリート、金属、ホ-リルソ-など
管理施設	柵、公園灯、受変電設備など	コンクリート、金属など
便益施設	水飲台、時計など	コンクリート、金属、ホ-リルソ-など
運動施設	防球柵、バックネットなど	コンクリート、金属、ホ-リルソ-など

＜施設事例＞



（園路）



（パーゴラ）



（ベンチ）



（遊具）



（公園灯）

＜管理手法＞

	予防保全		事後保全
	状態監視型	時間計画型	
適用の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 損傷により市民生活に多大な影響を与える施設 劣化の予兆が測れるもの 長寿命化によりライフサイクルの最小化が図れるもの 	<ul style="list-style-type: none"> 損傷により市民生活に多大な影響を与える施設 劣化の予兆や状態の把握が難しいもの 	<ul style="list-style-type: none"> 損傷により致命的な被害・影響を与えない施設
管理方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な点検を行い施設の劣化等の状態を把握し、最適なタイミングで補修や修繕等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 定期点検を行いつつ施設の安全性や信頼性を損なう前に計画的に更新 	<ul style="list-style-type: none"> 異常の兆候（機能低下・不具合等）を確認した段階で更新
施設分類	遊具・パーゴラ・防球柵・公園橋梁など		ベンチなどの簡易な施設

◆計画の対象となる公園施設

✓「大阪市公共施設マネジメント基本方針」に基づき、「インフラ施設」のうち「予防保全」による維持管理を行う公園施設を対象とします。（※市設建築物、天王寺動物園は対象外としています）

＜主な公園施設の施設数＞

（平成28年4月）

施設名	施設数
遊具	約6,400基
バ-ゴ-ラ（日陰棚）	約1,500基
防球柵	約70km
公園橋梁	約40橋
公園灯	約16,000灯
公園設備	受変電設備、ナイター設備他

＜本計画の対象となる主な公園施設＞



本計画の対象となる公園施設

2. 維持について

◆基本方針と実施方法

基本方針

定期的な点検により状態を把握し、損傷が大きくなる前にこまめに補修する「予防保全」による維持管理の実施

実施方法

公園全体の維持管理について計画、実行、検証、改善（PDCA）サイクルを確立

◆優先順位の考え方

基本的な考え方

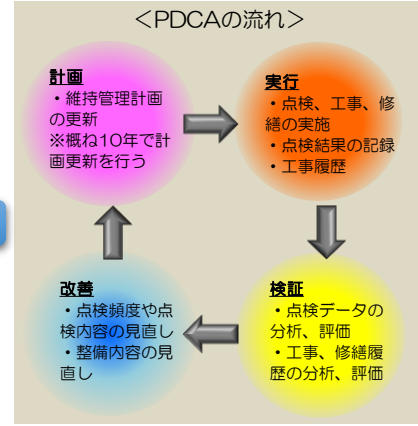
優先順位 1：安全確保

優先順位 2：点検

優先順位 3：効率的・効果的な維持管理

公園施設に対する基本的な優先順位

利用頻度や代替え施設の有無、社会的ニーズ等を勘案した供用休止の影響や施設そのものの事故リスクの高さなど施設の「重要度」と施設の健全性（「健全度」）をふまえ、優先順位を設定します。

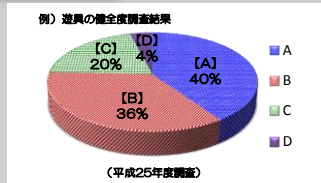


◆個別施設の状態等と対策内容

点検の実施



現状の把握



対策の実施

健全度	対応策	状況
A	経過観察	全体的に健全
B	順次対応	部分的に劣化が進行
C	順次対応	全体的に劣化が進行
D	必要に応じて使用禁止措置を行った上で、補修などの適切な対策を講じる	顕著な劣化

更新及び補修

✓施設の補修・更新等にあたっては、これまで以上に施設の長寿命化が図られ、また整備費用の低減を図るなど、素材・工法・技術等について検討し、ライフサイクルコストの縮減を図ります。

(補修)

施設の長寿命化の観点から部材などに応じ計画的に補修を行うとともに、安全性確保の観点から各種点検により破損等の危険箇所を早期に発見し、適時補修を行います。

(更新)

更新にあたっては、施設の劣化という物理的な視点だけでなく、利用状況や市民ニーズ等の社会的要請などの視点も考慮しつつ検討

実施時期

対策内容	対策時期										
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	
点検	<ul style="list-style-type: none"> <日常点検>8回/年 <定期点検>2回/年 										
点検	<ul style="list-style-type: none"> <詳細点検> 防球柵等：概ね5年に1回 公園対：2年に1回 公園設備：1年に1回 										
修繕補修	部材交換など										
	塗装塗替えなど										
	切り継ぎなど										
更新	更新										

計画期間：平成27年度～平成36年度

鋼製遊具における補修の事例

<全体>



【施工前】



【施工後】

<足元部>



【施工前】



【施工中】



【施工後】

3. 対策費用（コストの縮減効果）

✓計画期間内における対策費用は約12億/年を想定しています。

✓予防保全による維持管理を適切に実施することで、従来型の事後保全による維持管理と比較して年間で約20%のコスト縮減効果を見込んでいます。

※対策費用約12億円/年の中には、事後保全による維持管理の対策費用の一部が含まれています。

